

発行平成24年2月1日
苫小牧緑ヶ丘病院 広報担当
苫小牧市清水町1丁目5-7

安全・安心な病院であり続けるために

医療事故防止活動に全院挙げて取り組んでいます

皆さんは日頃、テレビや新聞等で「医療事故」の報道を見聞きすることがあると思います。「医療事故」とは、広く医療の全過程において発生した人身に係わるあらゆる事故のことをいいます。当院でもこうした事故をなくすために様々な対策をおこなっています。

あってはならない医療事故ではありますが、およそ280の大病院を対象に



した医療事故収集事業において、平成22年度では2,000件超の医療事故報告がありました。

報告があった事故のうち、症状の悪化や後遺症が残る等の事例は2割弱で、残りは障害が残らない事例ではありますが、事の軽重に関係なく、医療事故ゼロを目指さなければなりません。

医療事故に関する事例検討会もおこなっています

当院でも土屋院長を委員長とする

「医療事故防止対策委員会」を設置して事故防止対策に取り組んでいます。

医療事故といえば、故意や重大な過失が原因で発生するものばかりではありません。思い込みや思い違い、無意識での対応などの出来事から発生したものが圧倒的に多いのが現状です。このような小さな思いがけない事（ヒヤリとしたりハッとした出来事）を「インシデント」といい、これを適切に処理することが事故を防ぐ重要な鍵であると言われています。当院ではインシデントが発生した場合は報告書を作成、提出することとしており、その報告書を元に医療事故防止対策委員会で検討し、原因によっては業務内容の見直しや施設の改善な

どの対応策を講じます。こうした対応によりインシデントという小さい芽を摘み大きな事故を未然に防いでいるのです。

医療事故収集事業によれば、インシデントや医療事故の内容は転倒、転落が約4割を占めています。これらは打撲や骨折など重大事例になりかねません。

そのため、当院でも患者さんの見守りをアシストする離床センサー等の設備の導入・改善、スタッフの対処能力向上を目指す研修会の実施など、ハード、ソフトの両面で転倒・転落事故の防止に努めています。

また、当院の医療事故防止対策は単に医療事故から患者さんの身を守るためだけではなく、皆さんに安心して通院や入院できる環境を提供することも目的のひとつです。例えば季節性インフルエンザやノロウイルス等の感染症の防止も医療事故防止の一環としてとらえ、医療事故防止対策委員会の下に院内感染に関する専門チームを置き、院内感染への対策を集中して実施しています。

この他にも薬品や医療機器の安全管理を担当する責任者の任命など、院内での様々な医療行為の安全を保ち、皆さんに安心して受診していただける体制を整えています。地域の皆さんに選ばれる病院として、今後も全院挙げて安全体制の確立に取り組んでまいります。

当院では事故や感染症が発生した場合に素早い対処ができるよう、独自に作製したポケット版のマニュアル集を各職員が携行しています。

緊急時の連絡方法や感染症ごとの初期対応、事故発生時の対処と通報などが記載されており、常に新しい情報や技術に差し替えられながら使用されています。

マニュアルというと、とかく杓子定規という印象をもたれるものですが、異常時の行動基準として絶対に必要であると同時に、無用の動揺を緩和する役割も果たしています。



師走の一日を楽しく過ごしました



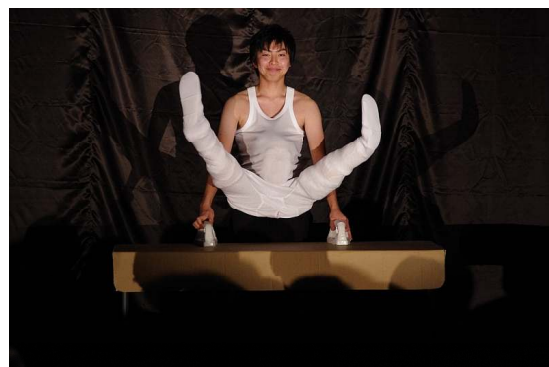
恒例のクリスマス会が開かれました

当院年末のお楽しみ、「クリスマス会」がこのたび盛大に行われました。このクリスマス会は入院患者さんとデイケアや外来通院中の方だけではなく入院患者さんのご家族もご招待しています。今回も多くのご家族にお越しいただき、いっしょに冬のひとときを温かく過ごすことができました。

今回のクリスマス会は、体育館でのステージ発表と各病棟でのクリスマスデ

ィナーの2部構成で行われました。

体育館のステージでは、デイケアの皆さんによる「マルモリダンス」を皮切りに、作業療法のメンバーによるギター演奏やテーブルクロス抜き、ミニドラマなどが繰り広げられ、本職顔負けのパフォーマンスに観客の喝采を浴びていました。



ステージ上での華麗なパフォーマンス！

また、毎回皆さんが楽しみにしている

土屋院長のピアノ演奏も行われ、例年と趣向を変えたクラシックの名品を3曲アンコールの声もかかって計4曲を披露、素晴らしい旋律に時間を忘れて聴き入っていました。



～ピアノの調べに魅了されました～

第2部のディナータイムでは、お寿司やケーキなどクリスマスにふさわしいメニューが並びました。御家族ごとのテーブルや職員も加わった円卓など、和気あいあいとした雰囲気の中で食事を楽しんでいました。

入院、療養生活を送る皆さんにとってご家族やスタッフとともに過ごし、一年の良いしめくくりとなるこの会は、これからも続けて行きたいと思います。

★★

病院カーリングチーム 全道大会出場!

道南ブロック代表として2年連続2回目の出場を果たしました

栃木副院長をリーダーとする当院のカーリングチームが、1月19日から空知の妹背牛町で行われた第31回北海道カーリング選手権に道南ブロック代表として出場しました。北海道選手権に出場するのは2年連続2回目です。

出場12チームが2ブロックに分かれて行われる予選リーグでは、北見市常呂町や名寄市の強豪チームが並ぶ組に入り、悲願の予選突破を目指し3日間で5試合を行いました。結果は残念ながら強豪の壁が厚く、悲願達成には至りませんでした。堂々の奮闘を見せてくれました。

栃木副院長は「戦える手応えはありましたが練習量の違いが結果に表れたと思います」



選手権出場を果たしたチームの勇姿

と振り返りました。練習場の確保に苦労する病院チームにくらべ、今回予選リーグで対戦したチームはいずれも地元で専用カーリング場があり、環境面で大きな差を付けられているのが現状です。

「今年は札幌に通年型の競技場が完成するので、練習環境は向上すると思います。来年こそ予選突破を達成し、全国大会を狙えるチームになりたいです」と熱く語っていました。



緑ヶ丘アーカイブス ◇平成7年ひなまつり◇



右下の写真は平成7年に行われたひなまつりの様子です。

入院、療養生活にとって冬期間は外出する機会も少なく、活動が単調になりがちです。そこで当院では、皆さんに季節を感じてもらいながら日常生活のアクセントになるようにクリスマスやお正月、ひな祭りなどの行事を積極的におこなってきました。



ひなまつりは本来女性のお祭りではありますが、前述のような理由もあって男性も含め全院挙げてのお祝いをしています。

男性が多い(?) ひなまつり

とはいえ主役はやはり女性であり、あくまで男性は引立て役のようです。



平成19年の冬祭りはそりすべりが人気でした

最近では寒さにも触れながら、より季節を満喫してもらえるよう外でおこなう行事も企画されています。

「病院冬まつり」と銘打って雪山のすべり台や連風揚げ、アイスクャンドルづくりなど冬ならではのプログラムで楽しんでいます。

今年も2月の中旬に病院グラウンドでおこなわれる予定です。各地で行われているの冬祭りに負けず、多くの皆さんに喜んでもらえるよう、準備がすすめられています。

ちなみにひなまつりの写真の中、右側に写っている男性職員は、看護学生として当院に勤務を始めて間もない頃の3階病棟の森山看護師長の初々しい姿です。

